デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 12 日(木) 発行:ていネコの投資ノート

※数値の時点:国内株・国債は 11 月 12 日(木)大引け、為替は同日 15 時時点、米国株・商品は 11 日(現地)の終値・清算値、韓国・中国株は 12 日終値。東証プライムの売買代金・売買高は概算値(17 時台の作成時点で確報は未公表)。

1. 本日のサマリー

- **日経平均は 60,819.36 円(-429.23 円、-0.70%)と 4 日ぶりに反落。**朝方は米ハイテク株高を受けて買われ高値 61,788.44 円を付けたが、後場に崩れて安値 60,643.79 円まで下げた。一方、TOPIX は 3,937.33(+7.94、+0.20%)と 4 日続伸し、2 指数の方向が分かれた。
- **下げの主因はエヌビディアの経営トップを巡る報道。**同社取締役会がフアン CEO の解任準備を進めていると米紙が報じ、11 日の通常取引終了後、同社株は一時約 8%下落したと Reuters が報じた。アドバンテスト 1 銘柄で日経平均を 313 円強押し下げるなど、値がさ半導体株に売りが集中した。
- **物色の方向が分かれた。**半導体・AI 関連が売られる一方、内需・ディフェンシブ株や好決算銘柄は堅調。値上がり 959、値下がり 548 で、33 業種中 27 業種が上昇。ゴム製品、水産・農林業、食料品が上位、非鉄金属、サービス業、電気機器が下位。
- **後場は台湾株の急反落も重荷に。**習近平国家主席の台湾統一発言で地政学リスクが意識された。国内債券は小動きで、新発 10 年債利回りは 2.785%。ドル円は 160 円の節目を前に 159 円台後半でもみ合った。

2. 主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均	60,819.36	-429.23	-0.70%、4 日ぶり反落、安値 60,643.79
TOPIX	3,937.33	+7.94	+0.20%、4 日続伸
プライム売買代金	9 兆 0867 億円		概算、売買高 27 億 2754 万株
値上がり／値下がり	959／548		変わらず 44、33 業種中 27 業種が上昇
長期国債先物 12 月限	126.83	-0.02	寄付 126.89、高値 127.14
新発 2 年債利回り	1.841%	-0.003%pt	フィスコ日次記事の系列
新発 5 年債利回り	2.172%	-0.014%pt	同上
新発 10 年債利回り	2.785%	+0.006%pt	同上(DZH 系列は 2.790%で横ばい)
新発 20 年債利回り	3.640%	-0.011%pt	同上
ドル円(円)	159.69	-0.10	12 日 15 時時点、11 日 NY 終値比
ユーロ円(円)	176.96	-0.25	同上
NY ダウ(ドル)	52,486.49	+254.60	11 日終値、+0.49%
S&P500	7,619.38	+98.45	11 日終値、+1.31%
ナスダック総合	25,466.19	+400.31	11 日終値、+1.60%
SOX 指数	10,564.11	+565.78	11 日終値、+5.66%
WTI 原油 12 月限(ドル)	86.53	+0.49	11 日清算値
NY 金 12 月限(ドル)	4,000.5	-29.7	11 日清算値
韓国 KOSPI	5,342.73	-32.63	12 日終値、-0.61%
上海総合指数	3,655.83	-24.81	12 日終値、-0.67%
CME 日経平均先物(円)	62,015		11 日清算値、大阪取引所終値比+575 円

3. 株式市場

値動きの経緯：前場は高く、後場に崩れる

日経平均は始値 61,475.11 円と続伸して始まり、前場には一時 500 円超上昇した。ただ、米国の時間外取引でエヌビディア株が急落していたことが意識され、上値は重かった。前場終盤には浅田日銀審議委員が早期の利上げに慎重な姿勢を示したことでハイテク株が買い直されたが、後場は台湾加権指数の急落と韓国株の軟化をきっかけに利益確定売りが広がり、安値 60,643.79 円まで下げた。前日までの 3 日続伸で 11 月 6 日の急落分をすでに取り戻していたことも戻り売りを誘った。翌 13 日は 11 月限オプションの SQ 算出日にあたり、持ち高を軽くする売りも出やすかった。

寄与度：値がさ半導体株に下げが集中

大引けの寄与度では、アドバンテストが -313.91 円と単独で日経平均の下げ幅の 7 割強を占め、リクルート HD(-100.12 円)、ソフトバンク G(-94.66 円)、イビデン(-77.67 円)が続いた。値下がり銘柄の寄与は合計-843.42 円、値上がり銘柄は+414.19 円で、上昇側はコナミ G(+16.86 円)のほか東京エレクトロン、KDDI、セコム、JT が並び、内需・ディフェンシブ色が濃かった。

物色動向：内需株と好決算銘柄が堅調

東証プライムでは値上がり銘柄が全体の 6 割を超え、33 業種中 27 業種が上昇した。ゴム製品、水産・農林業、食料品など内需・ディフェンシブ業種が上位に並び、非鉄金属、サービス業、電気機器が下位となった。個別では KDDI、セコム、ソニーグループ、テルモが堅調で、JT は大幅高。決算発表が佳境を迎えるなか、三菱マテリアルなど好決算銘柄には買いが向かった。一方、アドバンテスト、ソフトバンク G、イビデン、フジクラ、キオクシア HD など AI・半導体関連が売られ、ブロードリーフ、デクセリアルズ、楽天銀行は急落した。東証グロース市場 250 指数も大幅に 4 日ぶり反落し、日経平均 VI は上昇するなど、新興株や投資家心理にも警戒感が広がった。

テクニカル面：200 日移動平均線が上値を抑える

株探のマーケット日報によると、日経平均は上値の目安とされる 200 日移動平均線(62,090 円)に届かずに反落した。同線の手前で戻り売りに押された形で、13 日の SQ 通過後に改めて同線に挑めるかが焦点となる。

4．本日の主題：日経平均の反落とTOPIXの続伸が示す「指数の二極化」

本日は日経平均が-0.70%となった一方でTOPIXは+0.20%と、2つの指数の方向が逆になった。値上がり銘柄が6割を超え、27業種が上昇したことから、市場全体はむしろ底堅く、日経平均の下げは一部の値がさ株に集中していた。アドバンテスト、リクルートHD、ソフトバンクG、イビデンの4銘柄の寄与を合計するだけで、日経平均の下げ幅を上回る計算になる。

背景には、AI・半導体関連株を巡る材料が11月に入って大きく振れていることがある。米国では11月5日、AIデータセンター建設への規制強化観測からSOX指数が12.25%急落し、翌6日の日経平均は-3,643.13円の記録的な下げとなった。その後は3日続伸で急落前の水準を回復したが、今回はエヌビディアの経営体制という、業績とは別の不確実性が加わった。11日はコアウィーブの好決算（株価は24.7%高）でSOX指数が大幅高となったが、その追い風は時間外の急落で打ち消され、現物の日経平均は62,015円で引けたCME先物を1,000円以上下回って終えた。

一方、TOPIXの続伸と騰落銘柄数が示すとおり、物色の方向は分かれ、半導体関連が売られる裏で内需・ディフェンシブ株や好決算銘柄は底堅かった。日経平均は値がさの半導体関連とソフトバンクGの比重が大きく、エヌビディアを巡る報道が続く間はTOPIXより値動きが荒くなりやすいため、相場全体の強弱はTOPIXや騰落銘柄数とあわせて見たい。

5．債券・金利

国内債券は小動き。長期国債先物12月限は寄付126.89から一時127.14まで上昇したが、引けは126.83（-0.02）とほぼ前日並みだった。新発10年債利回りは2.785%（+0.006%pt）とわずかに上昇し、2年債は1.841%（-0.003%pt）、5年債は2.172%（-0.014%pt）、20年債は3.640%（-0.011%pt）と小幅に低下した。10年債は前日11日、米10月消費者物価指数の上振れを受けて2.779%まで上昇していたが（10日は2.672%）、本日は上昇が一服した。10月の国内企業物価指数は前年比7.1%上昇と伸びが加速しており、物価面からの利回り上昇圧力は残る。米国債市場は11日がベテランズデーで休場で、12日東京時間の気配は米10年債4.99%、2年債4.77%近辺。

6．為替・商品

ドル円は159円48銭を安値に159円台後半でもみ合い、15時時点は159.69円（11日NY終値比-0.10円）だった。11日のNY市場では、米CPIの上振れとタカ派的な当局者発言で12月FOMCでの追加利上げ観測が強まり、一時159.94円と約2カ月ぶりの高値を付けた。160円の手前では政府・日銀による為替介入への警戒から上値が抑えられている。ユーロ円は176.96円。商品では、WTI原油12月限が86.53ドル（+0.49）と上昇した一方、NY金12月限はドル高を受けて4,000.5ドル（-29.7）と下落し、4,000ドルの節目に迫った。

7．海外市場の動向

11日の米国株は反発した。NYダウは52,486.49ドル（+254.60、+0.49%）、S&P500は7,619.38（+98.45、+1.31%）、ナスダック総合は25,466.19（+400.31、+1.60%）。コアウィーブの好決算でAI投資の過剰感への懸念が和らいだ。SOX指数は10,564.11（+565.78、+5.66%）と大幅高で、エヌビディアも通常取引では2.87%上昇した。しかし引け後に同社のCEO解任準備が報じられ、通常取引終了後に一時約8%下落したとReutersが報じた。12日のアジアでは台湾株が地政学リスクを嫌って急反落し、香港株も軟調だった。KOSPIは5,342.73（-32.63、-0.61%）、上海総合指数は小幅高から下げに転じて3,655.83（-24.81、-0.67%）で終えた。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
11月6日(金)	57,434.77	-3,643.13	3,707.99	2.629%	12兆4808億
11月9日(月)	58,775.50	+1,340.73	3,818.16	2.648%	8兆9118億
11月10日(火)	60,459.58	+1,684.08	3,893.71	2.672%	9兆1555億
11月11日(水)	61,248.59	+789.01	3,929.39	2.779%	8兆6968億
11月12日(木)	60,819.36	-429.23	3,937.33	2.785%	9兆0867億

9．総括と注目点

本日は、日経平均が半導体主導で下げる一方、TOPIXは上昇し、値上がり銘柄数が値下がり銘柄数を上回った。3日続伸の反動に、エヌビディアの経営体制という予測しにくい材料が重なり、日経平均の値動きはしばらく荒くなりやすい。一方、好業績銘柄への買いは続いており、半導体以外の銘柄に買いが広がるかが次の焦点となる。

- 13日(金)：11月限オプションのSQ算出。エヌビディア取締役会の判断と、時間外を含む同社株の動き
- 16日(月)：国内7～9月期GDP速報、中国10月の小売売上高・鉱工業生産
- 17日(火)：米10月小売売上高。19日(木)午前4時(日本時間)：FOMC議事要旨。12月利上げ観測
- 20日(金)：国内10月全国消費者物価指数。国内金利と日銀の利上げ時期を占う材料

注：前日比・騰落率は前営業日終値から筆者算出し、出典の値と照合した。寄与度の比率、4銘柄の寄与合計が下げ幅を上回るとの記述、CME先物と現物の差は筆者算出。

単一出典の数値：日経平均の始値・高値、変わらず銘柄数、200日移動平均線の水準、KOSPI・上海総合の終値は株探のみ。新発国債利回り（推移表を含む）と国債先物の寄付はフィスコ日次「日本国債市場」の系列のみ（DZHは新発10年債を2.790%・前日比横ばいと報じ、集計元の違いで0.005%ポイントの差）。ドル円・ユーロ円（15時時点）と企業物価指数はDZHのみ（前日比は11日NY終値比）。米国債利回りは11日休場のため、フィスコ記事の12日東京時間の気配値。寄与度はフィスコ大引けランキング（寄与合計と前日比の一致を確認）、売買代金は株探の概算値。

出典間の差異：ナスダックの前日比は株探・フィスコ強弱材料が+400.32、DZH・OANDAが+400.31で、前営業日終値25,065.88からの算出により+400.31を採用。WTIはフィスコの86.35ドル（+0.31）ではなく株探・DZHの86.53ドル（+0.49）を採用。CMEの大阪比は株探の+575円を採用（フィスコは大阪日中比+1955円と記載）。

本資料は生成AIを用いて公開情報を整理・執筆したものです。出典：株探、フィスコ、DZH、ウエルスアドバイザー、OANDA、Reuters、TBLアドバイザリー、みんかぶ、株式マーケットデータ、Nasdaq、TechFlow、松井証券。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。